

須賀川市新庁舎建設基本設計 パブリックコメントの結果

○実施期間

平成 25 年 4 月 19 日～5 月 2 日（14 日間）

○実施結果

- ・意見提案者数……3 名
- ・意見累計件数……20 件

須賀川市新庁舎建設基本設計パブリックコメントにおける意見への回答及び方針

意見番号	意見内容	回答及び方針
1	主玄関が狭く、鬼門（西南、申酉）の入り口になっている。平面図を裏返しにし、吉方位（東南、辰巳）にして玄関を大きくすべきである。	○新庁舎は防災拠点として整備するため、拡張敷地に整備する防災広場、新庁舎及び新庁舎南側敷地を同一動線でつなぎ、災害時における一体性を確保することとしており、そのためにメインエントランスを現在の(案)の位置に配置しています。なお、玄関の幅については車いす等のすれ違いに配慮し、十分な幅を確保します。
2	西側の主階段幅が、狭い。2m以上は必要である。	○2階への移動は市民ホールからのエスカレータ・直通階段の利用、3階以上への移動はエレベータ利用を主体として計画しております。なお、階段幅は避難時の利用等を考慮し、適切な幅員とします。
3	北側の執務環境として、明るさは必要と考える。 2、3階の中央間仕切りは不用と考える。	○新庁舎は、オープンフロアを基本としており、2階及び3階の南側執務室と中央廊下との間仕切りは、フロア見通しや採光の確保から天井までの間仕切りではなく、来庁者の目線を遮る高さの間仕切りの設置を計画しており、透過性のある素材を用い、北側の執務環境が暗くならないよう配慮します。
4	建設部のカウンターは、幅広タイプとすべきである。 (2階)	○カウンターは、車いす利用者を考慮し、奥行き75cmを基準としていますが、打合せなどは、カウンターのほかミーティングスペースや相談室などを活用する考えです。
5	食堂前の庭スペースが狭い。(1階)	○防災広場、市民ホール、庁舎南東部の広場を一体的に使用できるよう整備し、イベントなどの活用を図ることとしています。
6	キッズコーナーが狭い。(1階)	○設置位置や歩行動線を配慮しながら、十分な面積を確保します。
7	健康福祉部と社会協議会及び産業部と土地改良区は隣り合わせにすべきである。(1階)	○新庁舎は、セキュリティを高めた庁舎として整備することとしており、その中で行政組織と行政以外の組織を別区画に配置することを基本としておりますが、業務が密接に関連する組織については、市民の利便性や事務の効率性などにも配慮しながら配置する考えです。

須賀川市新庁舎建設基本設計パブリックコメントにおける意見への回答及び方針

意見番号	意見内容	回答及び方針
8	相談室を増やすべきである。	○個室型の相談室に加え、ブース型のカウンター、オープン型の打ち合わせスペースなど、相談内容に合わせた十分な数のスペースを計画します。
9	議長室への入り口が狭い。	○家具等の搬出入を考慮し、十分な幅を確保します。
10	吹き抜けの必要性（温度管理、安全性）をどのように考えているか。 *一部階段周りの吹き抜け必要ないと思う。	○内部を一つの空間で結び、市民力が結集できるワンルーム空間としています。また、吹き抜け空間の自然採光や自然換気のほか、エリアごとに制御が可能な個別空調を採用し、環境やコスト縮減に配慮するとともに、柵や手すりなどを設置し安全性について十分配慮する考えです。
11	農業委員会は、来訪者が多いので、選管及び監査部門と、横並びではなく、選管及び監査部門は個室を設けるべきと考える。 また、農業委員会は、申請や相談業務の対応及び月1回の会議の部屋をどう確保するのか。	○新庁舎は、「新庁舎建設基本計画」に掲げる基本理念に基づき、全執務スペースをオープンフロアとしています。 ○申請や相談業務の対応は、申請や相談内容に応じてカウンター、パブリックスペースに設置するミーティングコーナー及び相談室で行います。 ○農業委員会を配置する予定の4階には、大会議室を配置し、間仕切りなどにより小・中会議室などとしても利用できる機能を設置するほか、同階に相談室としても利用可能な小会議室を配置する予定であり、その中で対応する考えです。
12	庁舎の長寿命化に向けた建設資材の選定の検討を十分に行うこと。特に屋根及び外壁は、50年は持つ仕上げとすべきである。	○イニシャルコスト、ランニングコスト、メンテナンス性、意匠性などを十分配慮し、計画します。
13	庁舎の維持管理のランニングコストの低減に向けた検討を十分に行うこと。また、委託と専任技術者の雇用とのコストパフォーマンスを検討すること。	○完成後の維持管理を想定しながら、コスト縮減が図られるよう、省エネルギーや低コストの設備機器などを採用するとともに、維持管理方法等については、管理委託や専任技術者の配置の必要性などを考慮しながらランニングコストの低減化が図られるようを総合的に検討します。

須賀川市新庁舎建設基本設計パブリックコメントにおける意見への回答及び方針

意見番号	意見内容	回答及び方針
14	150億円超もかけ贅を極めた福島市庁舎をモデルとするなどもってのほかであり、福島県には範とすべきすばらしい自治体である矢祭町をモデルにすべきである。	○新庁舎建設にあたっては、防災機能を充実するほか、市民の利便性が向上するよう、各種機能の充実を図る一方で、自然エネルギーを積極的に活用するなどランニングコストにも配慮しながら、できる限り費用の抑制を図りながら建設する考えです。
15	莫大な費用がかかる免震構造ではなく、耐震構造もしくは制震構造で十分対応できると思われるので、改めて精査をお願いします。	○新庁舎は、東日本大震災からの教訓を生かし、大地震により庁舎が倒壊しないことはもとより、迅速に災害対応の中核機能が担えるよう、建物内部被害が最も少ない免震構造を採用します。なお、耐震構造、制震構造及び免震構造は、災害拠点として同一レベルの強度により建築する場合においては、ほぼ同程度の費用になります。
16	議場・会議場にふわふわ絨毯などゆめゆめ使わないよう徹底を図ること。	○議場などの検討にあたっては、効率的な機能を導入する予定であり、できる限り費用を抑制する考えです。
17	市庁と福祉会館との機能分担を明確にし、市民スペースや市民協働スペースはむしろ福祉会館に設置すべきであり、市庁には不要である。	○新庁舎は「市民との協働のまちづくり」を推進する行政拠点として整備する考えであり、そのため、新庁舎内に市民が気軽に集い、活動ができる市民協働ゾーンや市民ホールを設置し、市民協働の推進を図る考えです。
18	市民協働スペースとはいったいどういう目的で設けようとしているのか、理解に苦しむ。市民同士の話し合いや会合のためなら公民館や集会所を利用すればよいことである。また、市民と行政との話し合い・会合でも同様である。従って、市民協働スペースは福祉会館にも不要と考える。 行政を司る市職員は立派な建屋に陣取って、話を聞いてあげるから用があるなら市庁に向いて来なさいなどという高飛車な態度は決して許されるものではない。自ら地域に向いて住民との対話を通して意見を吸い上げ、2013ビジョンに基づく実施計画を協働によって遂行していくのが本来の意味する“市民協働”と理解しているがそうではないのか。	○新庁舎は、「市民との協働のまちづくり」を推進する行政拠点として整備する考えであり、そのため、新庁舎内に市民ホールや市民協働ゾーンを設置し、市民協働の推進を図る考えです。また、今後「市民との協働のまちづくり」を推進していく上では、市民（町内会・行政区・市民活動団体・NPO法人・事業者・PTAなど）が主体的な活動ができるような支援を行うことが重要であるため、様々な主体が自由に活動交流などに参加できるように総合福祉センター跡地に（仮称）市民交流センターを整備し、市民と市民の交流促進の拠点として整備する考えです。

須賀川市新庁舎建設基本設計パブリックコメントにおける意見への回答及び方針

意見番号	意見内容	回答及び方針
19	<p>災害時対応（配置図） 公用車駐車場と駐車場（庁舎南側）を直接むすぶ車両用道路が防災拠点機能上必要と思う。 （例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常時は閉鎖、災害時は開放。 ・庁舎周辺住宅の火災、交通渋滞、通行止めなどで車両の出入りに困難が発生することが想定される。 	<p>○国道118号に面する防災広場からは、災害時において緊急車両が庁舎南側駐車場へ通り抜けできるよう整備する予定であり、災害時に防災広場、庁舎及び南側駐車場を一体的に活用できるよう整備する中で、公用車駐車場との動線を検討する考えです。</p>
20	<p>塔について 塔の規模を拡張し、図書館やボランティア交流機能をプラス。利用者が高所から市域を見ることにより須賀川を愛する人材育成に貢献できる施設になると思う。</p>	<p>○塔は、復興のシンボルとして設置する考えであり、その利活用については、市民ホール及び市民協働ゾーンと同様、市民が閉庁時や休日も気軽に集い活動できるスペースとして活用する考えであります。なお、図書館、ボランティア交流機能については、総合福祉センター跡地に建設予定の(仮称)市民交流センター内に整備する予定です。</p>